



君の進行で始まり、福笑い、折り紙・習字のブースを設け、ホストファミリーたちに各ブースを廻って貰い、生徒一人ひとりが英語を駆使しながら教えている姿が見られた。一通り廻ったところで、生徒たちの合唱『コスモス』の披露、そして最後に「炭坑節」を踊り（事前にシミュレーションを十分しておくべきだったことを反省）ワシントンでの最後の夜が終わった。素晴らしいJAPAN NIGHT PARTYになったと自負しているが、本当にホストファミリーが喜んでくれたかは、一緒に帰った生徒たちが聞いてくれたことだろう。～21:00

第7日目 8月22日(木)

9:15(米国時間) いよいよホストファミリーとの別れの時が来た。生徒たちにはホームステイが無事に終わったという安堵感と別れという淋しさが交錯している様子。しかし最後の別れを惜しむはずが、トラブル発生。バスの運転手が契約が違うと運転を拒否し出発出来ず、折角のお別れのシーンに水を差す結果となった。日本では絶対あり得ない状況である。さすがアメリカ!!

バスに乗り込んだ生徒たちの心は最早、憧れのニューヨークへ。

10:20 トラブルはあったが無事、ユニオン駅に着き、特急列車アムトラック (#174) に乗車しニューヨークへ。昼食は車内で弁当であったがサンドイッチの大きさにびっくり。首都ワシントンと離れると、車窓から見る景色が一変し、荒廃した街が現れ、アメリカの貧富の差が極端にあることを思い知らされた。



13:40 ニューヨークに到着。

生憎の雨であったが、市内観光に出かけ、メトロポリタン美術館・エンパイアステートビルを見学した。エンパイアステートビルの展望台に上がる頃には雨も止み、ニューヨークの摩天楼を真上から見る事が出来た。その後、ウェリントンホテルにチェックインし、食事となる。食事は、出発前に聞いていたとおりチキン丸ごと1羽を半分にした料理であった。私は完食したが残す人も多かった。確かにチキンの裏はグロテスクでおいしさも半減。ホテルでは大人しくしなさいと散々



言い聞かせ、各部屋を巡回したためか何事もなく就寝。なかなか寝付かれず起きていると一晩中サイレンの音が聞こえ、これぞニューヨークと実感。～21:15

第8日目 8月23日(金)

8:00(米国時間) 前日と打って変わって晴天となる。アメリカを象徴する自由の女神像を見学し、昼食後、一旦ホテルに戻る。

14:30 再び集合し、国連本部を見学。BUBBA CUMPで食事(出発前に決めていたエビフライ)をした後、ブロードウェイで本場ミュージカル(スパイダーマン)を鑑賞した。雑踏の中、帰りは生徒たちが迷子にならないよう周囲に気を配り無事ホテルへ到着。～23:30



帰国の日 8月24日(土)

9:00(米国時間) あっという間の9日間滞在。またまた出発前にハプニング発生。集合時間の9時までに生徒が揃わない事態となった。ホテルのお客が一斉に出ていくため、エレベーターに乗れないのだ。のんびり屋さんの生徒たちはぎりぎりまで部屋にいたため乗れなかったのである。何とか全員揃いラガーディア空港へ。

12:50 DL-1131便に搭乗しデトロイト空港へ。

15:45 DL-629便で日本への帰国の途へ着く。行きと反対に日本では約12時間の時差で日曜日となっているはず。

解団式 8月25日(日)

18:00(日本時間) セントレアに到着。泉添乗員さんにお別れと御礼を言った後、八百津町へ向かってバスを走らせる。ファミリーセンターにて、教育長、教育課長、先生、そして保護者の方々の出迎えの中、解団式を終える。

20人の生徒を全員無事に帰還させたことに安堵する。～20:30



最後に

このような研修の機会を与えて下さった吉田茂様に感謝申し上げます。また、八百津町長を始め関係者の皆様、そして生徒たちの参加にご理解を頂きました保護者の方に御礼申し上げます。生徒たちが、当町出身の杉原千畝氏の功績の偉大さと平和の有り難みを再認識し、今回の研修で学んだ事を将来の糧として活躍されることを願い、今後もこの事業が継続され、八百津町の子どもたちが国際感覚を醸成し、八百津町、日本のみならず世界に通用する人として活躍されることを願って研修報告とします。